

地域との接点をつくる最適な場だ。これらの団体の活動再開に向けた支援について所見を伺う。

生活環境部調整担当部長
感染症防止相談への対応などに配慮しつつ、団体の活動再開を支援していく。



自由民主クラブ
大戸 治重 議員



市民幸福度を向上させる市政運営を

答 市民満足度を数値で可視化・検証し
ウェルビーイングの向上を図りたい

議員 本市は、誰一人として取り残さない持続可能な世界を実現するための国際目標であるSDGsの基本理念を踏まえ、第4次基本計画(第2次改定)を推進している。その取り組み状況について伺う。

議員 本市は、誰一人として取り残さない持続可能な世界を実現するための国際目標であるSDGsの基本理念を踏まえ、第4次基本計画(第2次改定)を推進している。その取り組み状況について伺う。

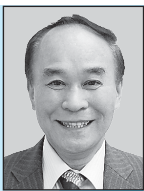
市長 8つの施策と17のゴールを関連づけ横連携を図りながら取り組みを進めてきた。引き続きSDGsの関係性を捉え持続可能なまちづくりにつなげていく。

議員 SDGsを実現するための教育について伺う。

教育長 小・中学校において各教科でSDGsと関連づけ考える授業及び持続可能な社会のつくり手を育む教育に取り組んでいる。

議員 行政運営において、多様性をもとに包摂性(インクルージョン)の観点から、まちの生活環境に関する客観データと市民の幸福感を測る主観データを総合的に評価するリバブル・ウェルビーイング・シティ指標を今後の市政運営に活用する予定について伺う。

市長 有効な活用方法について研究を進めたい。



自由民主クラブ
石井 良司 議員



更なる安全・安心の道路整備を進めよ

答 職員の増員が困難な中、民間委託による道路維持管理は重要なヒントだ

議員 本市の都市計画道路の整備率は低い。近隣市では都道より市道の整備率が高いが、市民協働でまちづくりを進める本市として、逆に市道の方が整備率が低い状況はいかなるものか。

市長 本市が下水道を優先

した経緯もあるが、道路整備が遅れてしまったことは反省すべき点だと考える。

議員 市民の協力も得て生活道路の維持管理等に取り組む点は評価するが職員による対応には限界がある。民間委託で経費削減と成果を両立した府中市の取り組みなどを参考にすべきだ。

市長 他自治体からも学び積極的に対応したい。

議員 市内には狭路で見通しの悪い道路が多く点在し



市内の生活道路整備の様子

議員 近年普及している電動アシスト自転車は、重量があり急加速するため大変危険だ。20〜50代の利用者の事故も増えており、通勤通学の駐輪場利用者に自転車安全講習会の受講を義務化するなど対策が必要だ。

市長 そうした誘導策もあり得るものと考えている。

その他の質問 牟礼の歴史について



公明党
大倉あき子 議員



離婚前後の親子へ寄り添った支援を

答 支援制度を正しく理解してもらうとともに、その周知に努めていく

議員 離婚に伴い子どももの養育費等に苦しんでいる人が少なくない。当事者に寄り添った更なる支援の充実が重要だ。所見を伺う。

子ども政策部長 慎重な配慮の下、相談者の心情を受け止め、面会交流をサポートする支援団体などの情報提供を行っている。

議員 少子高齢化により労働力の確保や事業の継続等が大きな課題となっている。組合員の主体的な働き方を実現し地域を持続可能なものにする有効な制度として期待される労働者協同

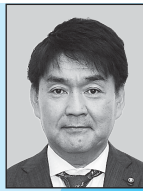
議員 面会交流は子どもの最善の利益を優先して考えることが重要だ。面会交流

組合について所見を伺う。

市長 今後の制度の活用については先行事例の情報収集や研究を行うとともに、地域の課題解決に取り組む他の活動との連携なども含め検討していく。

議員 奨学金の代理返還制度を導入する企業に対し行政が支援制度を創設し、学生と企業と地域社会の活性化を図ることは大変有意義と考える。所見を伺う。

市長 奨学金の返済で一定の役割を担う企業を自治体が支援する、あるいは国が



公明党
粕谷 稔 議員



自転車ヘルメットをどう普及させるか

答 自分の命を守るためのヘルメットの必要性について、更なる周知を図る

議員 自転車事故の致死率は、ヘルメットを着用していない場合は2〜3倍も高いという。ヘルメット着用努力義務化に向けた市民への周知について伺う。

市長 広報や警察署と連携した講習会等で、交通ルールの啓発とともに着用による安全効果の周知を図る。

議員 ヘルメットの購入を躊躇する市民も多いと予想される。購入費助成等の支援について伺う。

交通ネットワーク推進担当部長 現段階では考えていないが、近隣自治体やヘルメット普及の状況等を注視する必要があると考える。

議員 特殊詐欺やアポ電詐欺等が疑われる市民への電話が後を絶たない状況を早急に解消すべきだ。

総務部長 市内の特殊詐欺

議員 養育費・面会交流の啓発パンフレット

議員 養育費・面会交流の啓発パンフレット



都民ファーストの会
山田さとみ 議員



就学に向けた切れ目のない発達支援を

答 福祉と教育が連携し個々のニーズに合わせた丁寧な支援に取り組みたい

議員 小学校への入学を控えた5歳児の発達支援については、子ども発達支援センターのプログラムの回数を増やし、教育委員会の就学相談と一体的に支援していくべきだ。

子ども政策部長 市では乳幼児期から必要な支援を行っているが、将来の就学について早期に相談したい保護者のニーズは多い。福祉と教育が連携した効果的な支援の仕組みを検討する。

議員 動物との共生社会実現に向け、市内公園でドッグランのモデル事業を行うことについて所見を伺う。

都市整備部調整担当部長 一定規模以上の広さが必要なことや、近隣の理解などの課題から、現状では実施は難しい。



つなぐ三鷹の会
成田ちひろ 議員



中学生の自転車・バス通学の検討を

答 生徒と学校、PTA等の意見を聞き、バス通学から検討を始める

議員 ファミリー・サポート・センターで子どもを預けられない場合に、ベビーシッターを利用したくても対象は保育園の待機児童の保護者に限定されている。保育認定の有無を問わない助成事業を検討すべきだ。

子ども政策部長 ファミリーサポート事業や保育施設の一時預かりの状況等を見つつ、今後検討していく。

議員 市立中学校の通学に片道30分以上かかる子どもがいるが、自転車やバスの利用は認められていない。

議員 市立中学校の通学に片道30分以上かかる子どもがいるが、自転車やバスの利用は認められていない。